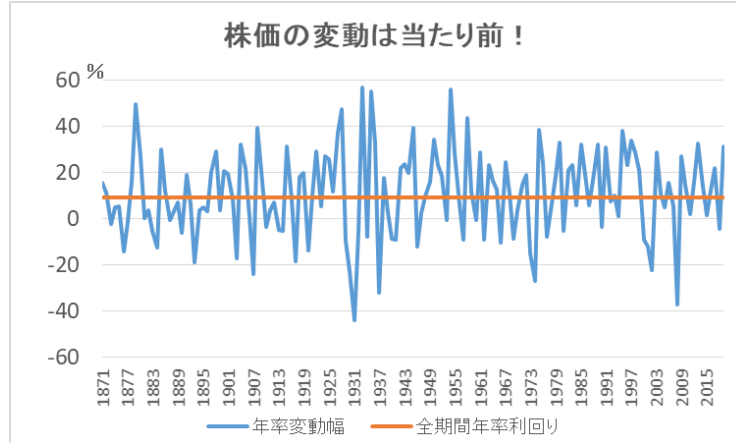


ATTENTION

目先の動きに翻弄されず、じっとしているのが最も得策



これまでコロナウイルスに比較的、冷静さを保っていた米国市場が、国内の感染拡大を懸念して、2月第4週は大幅安となりました。1週間でNYダウは3,583ドル安、12.4%の下げ。2月27日は、NYダウが1,190.95ドル安と最大の下げ幅となりました。ちなみに3月2日は1,293.96ドル高(+5.1%)と大幅高です。このような数字を見ますと、まるでジェットコースターのようなようです。しかしながら、市場の下げのレベルは実数字ではなく、%で測るべきです。上げ下げの実数字が大きくなるのは、これまで上がってきたからで、同じ上げ下げの割合でも、水準が高くなれば、数字での変動幅が大きくなるのは当然です。ダウが1万ドルの時に1,000ドル下がれば10%安ですが、29,000ドルの時に1,000ドル下がっても3.4%安。1日5.1%の上げ幅は、NYダウ31,000取引日のなかで上位2%に入るとのことですが、そういう日が620日もあったということでもあります。米国株式市場の過去の歴史を見ても、上下の変動幅は1年単位でもすさまじいものがあります。ましてや1日単位での上げ下げはもっと激しく見えるでしょう。しかしながら、上のグラフで注目してほしいのは、オレンジの直線です。これは米国株を1871年に買って149年間ずっと持っていた場合の利回り。実に年率9.2%、1ドルが488,270ドルになっているのです！目先の動きに翻弄されず、ただじっとしているのが最も得策だったということです。

COLUMN

中国への遠慮がコロナウイルスを蔓延！

コロナウイルスの広がりが危惧されます。国は現在この対策にさぞ大変でしょう。しかしながら、これまでの対策を見ていると、あまりにも遅速で、甘すぎた感を否めません。

私は、2月2日に上野御徒町のある大型ディスカウント店に買い物にいったのですが、まわりは買い物の中国人でいっぱいでした。その頃中国でコロナウイルスが広がっている頃で、なにか気持ち悪い感じを持ちました。また帰りの山手線の中では、周りには中国人だらけという有様。その頃、ロシアは中国人の入国を禁止し(1月31日)、米国は、主要航空会社が中国便を全面運休、中国に入って米国に来た外国人の入国も禁止しました。

伝染病への対策は初動対策がなにより大事な中で、日本の対応はかなり甘かったという印象を強く持ちます。その結果が、コロナウイルスの広がりが加速しているという状況につながっているのです。

日本政府は危機管理が甘いといわざるを得ません。いわば平和ボケで、中国に遠慮して初期の段階で厳格な水際政策をとりにくかったということです。また野党も、中国に対しては前から弱腰な姿勢が否めません。中国は、日本の対応に感謝しているといっていますが、繰り返されている尖閣諸島の領海侵犯がやむわけでもないでしょう。周主席の来日中止は、日本でのコロナウイルス蔓延を危惧してのことと、発生元の中国政府は言っているようです。政府は当たり前のことですが、国との関係より、まず国民の生命をしっかりと守るということを最優先させるべきです。

MARKET

	(2月末)	(1月末比)
日経平均	21,142.96円	-2,062.22円 (-8.89%)
NYダウ	25,409.36ドル	-2,846.67ドル (-10.07%)
米ドル	108.10円	-0.25円 (-0.23%)

今月の言葉

- ・ 仕事より先に金のことを考える時は、失敗の恐れを生み、それが事業の妨げになる。
- ・ 奉仕をまず考え、仕事をできる限り最善の方法で行う人には、必ず道が開けてくる。

- ヘンリー・フォード

今年も出ました！バフェットの「株主への手紙」

毎年、今の時期に出るバークシャー・ハサウェイを率いるウォーレン・バフェットの「株主への手紙」。世界中の投資家が待ち望んでいる、いわば現代版「投資のバイブル」といってもよいでしょう。今年もそのエッセンスを紹介しましょう。

バフェットは「内部留保」の適切な投資による複利効果を強調します。バークシャーでも、この内部留保の傘下企業への適切な投資に重点を置いてきたといいます。事業買収の判定基準として、1. 高い投下資本利益 2. 有能で正直な経営者の存在 3. 適切な買収価格を挙げます。

またバフェットは、企業買収を結婚にたとえます。特に買う側にとって、最初はワクワクしていたが、だんだんと中味が見えてきて、幻滅になることもあるとします。しかしここで強調するのが、失敗した事業は次第に資本を必要としなくなり、成功する事業に資本を投資して、大きく業績が膨らむこと。それを繊維事業がほとんどだったバークシャー事業の変貌ぶりで説明します。下落した株の影響力が小さくなり、上がった株の影響力が大きくなることにも通じます。

アップル、コカ・コーラなど保有する市場性有価証券全体について、時価総額加重平均で、投下資本利益率は20%以上を確保しているとしています。もし借り入れしないで、感情をコントロールできれば、これからも株式は、債券を大幅に上回るリターンを上げるとします。そして「いつも警戒を怠るな！」とのこと。いまの時期を暗示しているようです。

自分がいなくなっても心配する必要がない5つの要因：

1. バークシャーの多様な事業や投資先が、十分に満足できる利益を上げられる。
2. 持ち株会社の元にその“支配”事業があるバークシャーの立ち位置は、永続して経済的優位をもたらす。
3. 極限のショックにも耐えられる盤石な財務基盤
4. 有能で、自らを捧げるバークシャーの経営陣
5. バークシャーの取締役会は、株主利益と米国産業界で稀有なバークシャー文化の堅持を最も重要視していること

最後に、バフェットは米国企業の取締役会について、批判的に展開します。

1. 裕福でない人物は収入のために取締役を務め、経営陣サイドに寄りがち。
2. 自分のお金で取締役を務める会社の株を保有しない
3. 女性役員が極めて少ない
4. 有能なCEOを見つけだせない
5. 監査委員会が、CEOの意向に逆らいにくい
6. 報酬査定が、コンサルタントの査定に寄り勝ち
7. 社長を除く取締役会ができたことは評価
8. 人間的によくても、事業を理解していない人物が多い

そして株主の利益を背負うバークシャーの取締役はみな、顧客を喜ばせ、仲間を称賛し、社会や国の良き市民となることを目標とする経営陣を選ぶだろうとしています。

いつ読んでも、バフェットの「株主への手紙」は示唆に富んだ内容です。これからもできるだけ長く、バフェットに「手紙」を書いてもらいたいものです。

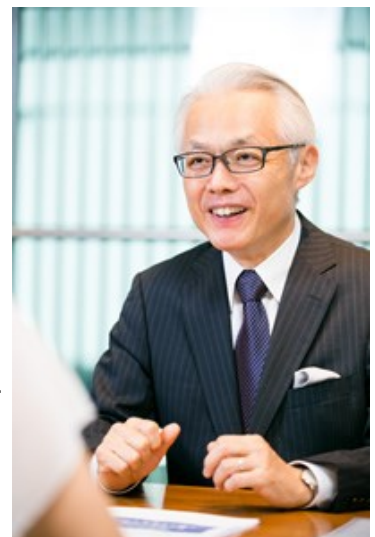
まかせて安心、資産運用のホームドクター

- 大切なお金を間違いない方法で運用しているのか、心配になることはありませんか。
- 退職後のセカンドライフを、お金の心配なく、ゆとりを持ってお過ごしですか。
- 仕事が忙しくて、なかなか運用まで手が回らないということはありませんか。
- 銀行や証券会社が勧めるままに、株や投資信託を購入していませんか。

金融商品の中身や手数料がどうなっているか、きちんと把握していますか。

びとうファイナンシャルサービスは、金融機関から完全独立のFP・資産運用アドバイザーです。その強みを生かし、お客様に、客観的で、公正・中立なアドバイスを提供しています。手数料が高く売りやすい商品をお客様に勧めるのではなく、お客様に最も適した金融商品やお客様にベストのアドバイスを提供しています。

びとうファイナンシャルサービスは、お客様の目標や夢の実現のため、40年を超える長い経験と深い専門知識、高い倫理観をもとに、お客様の利益のみに目を向けたサービスを提供しています。たとえるなら、多くのお客様の人生という航海で、無事に目的地に到着する大型客船であり、いつもお客様の資産運用という面で健康管理をするホームドクターです。



びとうファイナンシャルサービス
代表 尾藤 峰男

びとうファイナンシャルサービス 公式HP

<http://www.bfsc.jp>

あなたの資産運用を成功に導くメルマガ！

お申し込みは <http://www.bfsc.jp/mailmagazine/>

発行者：びとうファイナンシャルサービス
代表取締役 尾藤峰男

電話：03-6721-8386 FAX: 050-3156-1072
携帯：070-5567-3311 電子メール：info@bfsc.jp